

幼小連携に関する表現教材としての 「歌のしかけ絵本」の有効性

—図工的側面と音楽的側面による検証を中心に—

薩摩林 淑子（初等教育学科）・山成 美穂（初等教育学科）

The Effectiveness of “Pop-Up Song Books” as Expressive Teaching Materials for Cooperation between Preschool and Elementary School : Survey of Artistic and Musical Aspects

Sumiko Satsumabayashi and Miho Yamanari

Department of Primary Education, Kamakura Women's University Junior College

Abstract

In this study, we researched theoretical aspects on the potential and effectiveness of “Pop-Up Song Books” as expressive teaching materials for cooperation between preschools and elementary schools. We analyzed the consistency and relevance of the characteristics of the “Pop-Up Song Books” compared with the contents of the “Guidelines for Kindergarten Education”, “Guidelines for Elementary School Study”, and “Textbooks”. “Pop-Up Song Books” were significant as a combined teaching material of art and music, and they were effective as teaching material that expressed cooperation between preschools and elementary schools.

Key words : cooperation between preschool and elementary school, expressive teaching material, pop-up song book, learning in cooperation with teaching areas

キーワード：幼小連携、表現教材、歌のしかけ絵本、合科学習

はじめに～研究の経緯

本研究は、保育者養成課程の授業「保育内容演習表現」で筆者らが実践している、学生による手作りの保育教材「歌のしかけ絵本」に関する継続的な研究のひとつである。本稿においては「歌のしかけ絵本」の幼小連携を目的とした表現教材としての可能性、教育的意義、有効性に関して、理

論的側面から検討を行うものである。

「歌のしかけ絵本」の制作及び表現活動は、2012年度より授業「保育内容演習表現」で取り組んでいる学修内容で、まず保育者養成課程の基礎技能を学ぶ授業「図工」「音楽①」で培った技術を使って「歌のしかけ絵本」を制作する。次に歌い聞かせの実践発表を行い、表現教材の実践的な活用を経験する。この授業の目的は、言葉では表しきれ

ない感情や感覚を、色や形、歌唱で表現する意味を学び、学生が自ら表現することの楽しさを味わい、子どもの視点に配慮しながら表現指導の方法を実践的に身につけ、子どもの表現活動を遊び心豊かに援助できるようになることである。

2017年の研究¹⁾では、授業「保育内容演習表現」での歌のしかけ絵本の実践の成果に関する分析を行った。歌のしかけ絵本の制作面に関しては図工的観点から、実践面に関しては音楽的観点から分析・検討し、制作面では、歌のしかけ絵本制作を通して、学生が自由な発想による創意工夫を実現すると同時に、子どもの気持ちに寄り添ったり想像したりする保育者としての大人の視点を培っていることが明らかになった。実践に関しては、歌の情景やリズムの特徴をつかんだ音楽的な実践が望ましく、音楽的資質（特にリズム感）や表現力向上を目的とした指導内容を充実させる必要があることを導き出した。以上のことから、歌のしかけ絵本の制作・実践を行う授業「保育内容演習表現」は、学生の表現技能をより上達させ、学生（保育者）の資質と意識を高める有効な表現指導の一つであることが確認された。

2018年の研究²⁾では、歌のしかけ絵本の子どもにとっての表現教材としての有効性、教育効果や意義を検討する為に保育現場で実践研究を行った。2歳児を対象に学生による歌のしかけ絵本の実践と分析、学生・保育者へのインタビュー調査、2歳児の保護者へのアンケート調査を行った。その結果、歌のしかけ絵本は2歳児にとって、①絵だけでなく音楽があることで意識を向けやすい、②しかけで興味を引き出すことができる、③絵本から歌の世界を想起しやすく歌の内容を知ることができる、という点において、2歳児の表現教材としての有効性・教育効果があると結論づけた。

続いて2019年に実施した研究³⁾では、3.4.5歳児を対象とした学生による歌のしかけ絵本実践の検証・分析と、学生・幼稚園教諭・園長へのインタビュー調査を行った。その結果、歌のしかけ絵本は、歌の世界が視覚的に表現され、子どもの感性を刺激して想像力を育むことができる点、子

どもの発達段階により想像力の広がりや質が異なる点、歌うことや集団行動が苦手な子どもでも参加できる等、子どもの心の状態に沿う受容性のある教材であることが明らかになった。一連の研究を通して、歌のしかけ絵本は幼児教育現場で活用可能な、子どもの発達段階に即した表現力を養う教材としての有効性を持つことが実証できた。これらの研究の経緯を経て、筆者らは、歌のしかけ絵本の実践（実演）は年齢の異なる子どもたちの心をつなぐと同時に、歌の世界のイメージを豊かに膨らませる役割があることに着眼し、幼児教育から小学校教育に接続する表現教材としての可能性もあるのではないかという気付きを得た。小学校教育では、歌のしかけ絵本は児童が実際に制作・実践することにより、その表現教材としての役割がより広がるのではないかという展望をもった。

1. 研究の目的と先行研究

上記の研究成果をふまえ、本研究においては、歌のしかけ絵本の表現教材としての発展的な用途・有効性について更に検討を行う。本稿では、歌のしかけ絵本の発展性（幼児教育で子どもが受動的に見て聴いて楽しむだけではなく、小学校教育で主体的に制作と実践する活動へ繋げる）を手がかりに、幼小連携を見据えた小学校における児童の表現教材としてどのような可能性・有効性を有するのか、理論的側面の検証を通して検討・考察することを目的とする。尚、本稿での前提条件として、歌のしかけ絵本を表現教材とするにあたり、幼児教育では、絵本の制作と絵本を用いた実践（しかけをリズムを感じて動かしながら歌い聞かせの実演をする）は大人が行い、小学校教育では、児童自身が創意工夫を盛り込み絵本を制作し、絵本を用いた実践（子どもなりの感性で、しかけをリズムを感じて動かしながら歌って表現する実演）にも関わる、という前提で検討・考察を進める。本稿は、教材の「発展性」という視点を持って検証を行うため、幼小においてこのように制作・実践者に差異が生じるが、そのことも含め

たうえで表現教材としての有効性を探っていく。

さて、幼小連携に関しては、近年、各科目・領域に応じた多様な観点から、カリキュラム、活動内容や教材研究が多数行われているが、本研究に関連する表現教材・活動に関する研究となると限定される。例えば図工では、造形表現と図画工作の活動に関する研究、幼小をつなげる造形教育カリキュラムに関する研究があげられる。小橋・小林・横（2017・2018）では、幼小それぞれの教育現場で同一の材料を用いて、幼児と児童の活動傾向に生じる違いやそれぞれの教育目標の設定についての実践的な調査を行った。この研究から「幼児教育での造形的な表現で育まれる資質・能力が、図画工作科における造形遊びでの学びにつながる」⁴⁾ことが見出されている。続く小橋・佐藤・横（2018・2019）においては、小学校図画工作科と幼児教育での「表現（造形）」分野に関する内容実施状況調査が行われ、その比較調査から、保小間の造形分野に関するギャップの有無や質についての分析を行っている。この研究からは、幼小接続を意識した造形分野のカリキュラム作成において、幼児期に育む資質・能力の3つの柱との関連付け、学習指導要領に基づいた表現する子どもの姿と連動させた創造性を伴う知識・技能との関連付けの重要性が示唆されている。音楽では、幼小を接続する表現活動や、音楽教育プログラム開発の為の検討・研究が多数行われているが、本稿に関連する研究として、歌のしかけ絵本のように複合的な表現活動や教材を対象に幼小連携を探る研究をあげる。まず、岡林他（2013-2016）の一連の研究課題「幼小連携をふまえた音楽教育プログラムの開発」の中の「絵本と音楽表現」に関する研究である。岡林他（2017）では、「絵本」を用いた幼児の表現遊びを、小学校の学習活動「音楽づくり」へ繋ぐ幼小連携の可能性を探った。絵本のイメージを音声・身体・楽器表現に結び付ける実践を小1と幼稚園で行い、この活動が「音楽づくり」の素地となり幼小を繋ぐ音楽活動となり得ることを示した。佐野・岡林・坂井（2016）、坂井・佐野・岡林（2023）では、幼児を対象に絵本の言葉のオノマトペを表現遊びの中で音楽的に展開するプロ

グラムを考案・実践し、絵本を用いた表現あそびが小学校への接続を視野に入れた活動となることを明らかにした。そして、「作る」「演じる」という関連性からパネルシアターに関する先行研究をあげる。柿沼（2021）のパネルシアターの教材特性に関する研究では、パネルシアターは、「見る立場」「演じる立場」「つくる立場」の其々に魅力があり、制作と実演の両方における工夫を必要とする幅広い教材であることが示されている。

本研究では、これら関連する先行研究の成果をふまえながら、歌のしかけ絵本を、これまでの先行研究にはみられない「図工と音楽の専門性を活かした複合的な表現教材」とであると捉え、幼小連携のための表現教材としての有効性を検証する。

2. 研究の方法

本研究では、理論的側面から、歌のしかけ絵本の幼小連携を目的とした児童（小学校）の表現教材としての有効性について検証・考察する。方法として、まず歌のしかけ絵本の表現教材としての特徴を確認したうえで、歌のしかけ絵本と『幼稚園教育要領』⁵⁾（平成29年告示）、『小学校学習指導要領』図画工作・音楽（平成29年告示）の内容とを照らし合わせ、その整合・関連性について検証する。次に、小学校教科書（図画工作・音楽）の内容と歌のしかけ絵本の表現教材としての特徴についても照らし合わせ、その整合・関連性について検証を行う。以上の検証から幼小連携のための小学校における教材としての可能性、有効性、教育的効果に関して考察を行う。

尚、本稿の分担については、研究の経緯と2. 研究の方法については薩摩林、1. 研究の目的と先行研究及び3. ～7. の分析と考察「図画工作」は山成、同「音楽」は薩摩林、7. 3及び8. のまとめは山成が行った。

3. 「歌のしかけ絵本」の表現教材としての特徴

歌のしかけ絵本は、子どもの歌・童話を題材にして制作及び実践を行う子ども向けの表現教材で

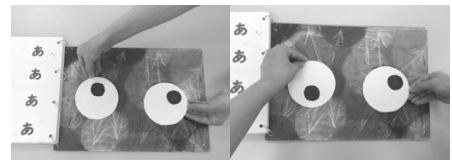
【参考画像】「歌のしかけ絵本」としかけ（画像は制作者より書面による掲載承諾を得ているものである。）



コラージュ技法による表紙



切符が移動できるしかけとスクラッチ技法



歌のリズムに合わせてクルッと回るしかけ

ある。その図工的側面⁶⁾、音楽的側面の特徴を以下にまとめる。

図工的側面の特徴

- ①歌詞やメロディから連想される歌の豊かなイメージや情景を「絵」と「動きのある工作（半立体）」により表現した手作りのしかけ絵本である。
- ②幼児教育の現場で扱われる描画材、素材、道具を使って表現し、歌のしかけ絵本を見た子どもが造形的な表し方に親しみを感じ、子どもの豊かな創作活動につながる。
- ③歌のしかけ絵本の絵は、様々なモダンテクニック（描画技法）を用いて表現し、制作者と鑑賞者がモダンテクニックの豊かな応用方法を実践的に学ぶことができる。
- ④大勢の子どもの前で実演することを想定して製作され、しかけのある絵本を子どもと大人が一緒に見たり歌ったりしながら、歌のイメージを楽しむことができる。

音楽的側面の特徴

- ①子どもの歌の歌詞の情景や気分を、歌のしかけ絵本に描かれた絵を通して想像をふくらませ、歌ったり、歌い方を工夫することができる。
- ②リズムを感じリズムに合わせてしかけを動かす表現活動が、リズムへの意識を増す一助となる。
- ③歌、絵本、ピアノ伴奏とのアンサンブルを実践することができる。
- ④多様な表現活動。一人で歌い聞かせをしたり、皆で歌いながら楽しんだり、楽器等の音を取り入れるなど多様な表現活動が可能である。

4. 『幼稚園教育要領』との整合・関連性（表1）

4.1 図工的側面

幼稚園教育要領の「表現」に関する項目におけ

る図工的側面では、主に、子どもの素朴な表現や主体的な制作活動を援助する必要性についての内容が多いが、受動的な表現教材である見て楽しむ歌のしかけ絵本とは、どのような整合性が取れるかの確認を行なった。

まず、総則にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の（9）先生や友達と共に絵本に親しむ内容、（10）様々な素材の特徴や表現方法への気付きの内容は、図工的側面の特徴②④との整合性がある。続いて、「言葉3内容の取り扱い」（3）（4）「表現1ねらい（3）」「表現2内容」（1）（2）における、絵本を見ることから豊かなイメージを持ったり、表現を楽しんだりする内容は、図工的側面の特徴①②④との整合・関連性がある。「表現2内容」の（4）（5）（7）は、子どもの主体的な遊びや制作活動についての内容であるが、その援助となる視覚的な表現教材（サンプル作品）として、図工的側面の特徴②③との発展的な関連性がある。

4.2 音楽的側面

幼稚園教育要領「表現」の音楽的側面については、子どもが様々な音に気付き、感じたことや考えたこと・イメージを自分なりに表現すること、音楽に親しみ楽しさを味わう内容が示される。

まず総則の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の（9）先生や友達と共に絵本に親しむ内容、（10）感性を働かせる中で表現の仕方などに気付き、自分で表現する内容は、音楽的側面の特徴①④と整合・関連する。「言葉3内容の取り扱い」（3）（4）における、絵本から豊かなイメージを持ったり、言葉の響きやリズムに触れ表現の楽しさを味わう内容は、特徴①②と整合・関連性が深い。「表現1ねらい（2）」「表現2内容（4）（8）」の、感じたことや考えたことを自分なりに音、動

表1 『幼稚園教育要領』と「歌のしかけ絵本」との整合・関連性		◎整合性がある ○関連性がある	
幼稚園教育要領 第1章 総則 第2「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」		図工的側面	音楽的側面
(9)言葉による伝え合い 先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。		◎	○
(10)豊かな感性と表現 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。		◎	◎
言葉 3 内容の取り扱い			
(3)絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結びつけたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージを持ち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。		◎	○
(4)幼児が生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること。		○	◎
表現 1 ねらい			
(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。		○	○
(3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。		◎	
表現 2 内容			
(1)生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。		◎	○
(2)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。		◎	
(4)感じたこと考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。		○	○
(5)いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。		○	
(6)音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。			◎
(7)かいたりつくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。		○	
(8)自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。			○

き、言葉などで表現して楽しむ内容は、歌のしかけ絵本を「見て聴いて楽しむ」活動の延長線上の内容として、子ども自身が実践（絵を見て感じたことを元に思いを持って歌う、身振りや手拍子、楽器を用いた表現）に関わる場合に、特徴の全てに関連する。「表現2内容(1)」の様々な音に気付き感じたりして楽しむ内容は特徴②④と関連し、(6)の音楽に親しみ歌うことやリズム楽器を使う楽しさを味わう内容は全ての特徴と整合する。

5. 『小学校学習指導要領』との整合・関連性

5.1 図画工作『小学校学習指導要領 第2章 第7節』

小学校学習指導要領の「図画工作」では、児童の表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成を目指している。ここでは、児童の学年が上がり、主体的な造形活動の技能が幼児期よりも発達していることをふまえ、鑑賞したり歌ったりすることに加え、自ら作って楽しむことができる表現教材としての歌のしかけ絵本の特徴とどのような整合性が取れるかの確認をし、各学年の目標及び内容から、第1学年及び第2学年と

第3学年及び第4学年に関する事項を表2にまとめた。第3学年及び第4学年については、第1学年及び第2学年とほぼ類似するため、異なる文言のみ括弧内に記載した。

5.1.1 目標（表2）

目標(1)「(前略) 手や体全体の感覚などを(十分に) 働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。」、(2)「造形的な面白さ(よさ)や楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく(豊かに) 発想や構想をしたり、身の回りの作品(身近にある作品) などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。」、(3)「楽しく(進んで) 表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう(後略)。」

以上の文言の下線部分（下線は筆者）が歌のしかけ絵本の図工的側面の特徴①～④と整合しており、特に①～③は、全ての目標と整合している。

5.1.2 内容（表2）

A 表現では、「思考力、判断力、表現力等」を培う(1)「イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと(見たこと) から、表したいことを見付けることや、(用途などを考え)

表2『小学校学習指導要領 図画工作』と「歌のしかけ絵本」の特徴との整合・関連性		◎整合性がある ○関連性がある			
各学年の目標及び内容 第1学年及び第2学年(第3学年及び第4学年)		「歌のしかけ絵本」の造形的側面の特徴(詳細は、本稿 3に記載)			
		①歌詞の情景をイメージし、絵と工作(しかけ)で表現している。	②幼児が扱う画材、素材、道具を使用。鑑賞者の創作活動につながる。	③様々なモダンテクニックの描画技法を応用して表現している。	④大勢の子どもの前で実演。鑑賞者が一緒に歌って楽しむことができる。
1 目標					
(1)対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付く(わかる)とともに、手や体全体の感覚などを(十分に)働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。 【知識及び技能】	◎	○	◎		
(2)造形的な面白さ(よさ)や楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく(豊かに)発想や構想をしたり、身の回りの作品(身近にある作品)などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】	◎	○	○		○
(3)楽しく(進んで)表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい(豊かな)生活を創造しようとする態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】	◎	○	○		◎
2 内容 A 表現					
(1)イ 絵や立体工作に表す活動を通して、感じたこと想像したこと(見たこと)から、表したいことを見付けたり、(用途などを考え)好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色(材料など)を考えたりしながら、(生かしながら)どのように表すかについて考えること。 【思考力、判断力、表現力等】	◎	○	○		
(2)イ 絵や立体工作に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる(適切に扱う)とともに、(前学年までの材料や用具についての経験を生かし)手や体全体の感覚などを(十分に)働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。 【技能】	○	◎	◎		
2 内容 B 鑑賞					
(1)ア 身の回りの作品(身近にある作品)などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な材料などの(身近な美術作品、製作の過程などの)造形的な面白さや楽しさ(よさ)を、表したいこと、(いろいろな)表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。【思考力、判断力、表現力等】	○	○	○		◎
2 内容【共通事項】					
(1)ア 自分の感覚や行為を通して、形や色など(の感じが分かること。)に気付くこと。 【知識】	○		○		○
(2)イ 形や色などを基に自分のイメージをもつこと。 【思考力、判断力、表現力等】		○	○		○
指導計画の作成と内容の取り扱い					
1(5)第2の各学年の内容の「A表現」の指導については、適宜共同して作り出す活動を取り上げるようにすること。	○				◎
1(7)低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりに育ってほしい姿との関連を考慮すること。(後略)		◎		○	◎

好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色(材料など)を考えたりしながら、(生かしながら)どのように表すかについて考えること。」、技能を育てる(2)「イ 絵や立体工作に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる(適切に扱う)とともに、(前学年までの材料や用具についての経験を生かし)、(中略)表し方を工夫して表すこと。」における下線部分(下線は筆者)の文言が、歌のしかけ絵本の主体的な図工的側面の特徴①～③と整合する。B鑑賞では、「思考力、判断力、表現力等」を培う(1)は文言の全部分において、受動的な図工的側面の特徴④と特に深く整合している。

5.1.3 指導計画の作成と内容の取り扱い(表2)

歌のしかけ絵本は学生の個人制作であるが、1(5)の「適宜共同して作り出す活動を取り上げるようにすること。」の下線部分(下線は筆者)について、小学校の現場で児童が共同制作の合作絵本として制作することが可能であると考え、発展的な意味での関連性があると考え図工的側面の特徴

①②では、関連性があるとしている。1(7)の「他教科との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにする」は、特徴④の、「見たり歌ったりしながら歌のイメージ」を楽しむという、図工と音楽の複合的な表現教材としての歌のしかけ絵本の特徴が特に整合する。同じく1(7)の「幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮する」では、特徴①～④の全てにおいて整合性または関連性があるが、特に②④において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の先生や友達とともに絵本に親しんだり、素材の特徴や表現の仕方への気付きを深めるという内容に整合している。

5.2 音楽『小学校学習指導要領第2章第6節』

小学校学習指導要領の「音楽」第1学年及び第2学年では、音楽表現を楽しむために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けること、楽しく音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるなどが示され、「楽しさ」を伴い知識・技能・思考力・表現力・学びに向かう力を育

幼小連携に関する表現教材としての「歌のしかけ絵本」の有効性
—図工の側面と音楽的側面による検証を中心に—

表3 『小学校学習指導要領 音楽』と「歌のしかけ絵本」の特徴との整合・関連性		◎整合性がある ○関連性がある			
第2 各学年の目標及び内容 第1学年及び第2学年		「歌のしかけ絵本」の音楽的側面の特徴 (詳細は本稿3)			
		①歌詞の情景・気分をイメージして歌う	②リズムに合わせて表現・リズムへの意識	③歌、絵本、ピアノのアンサンブル	④友達と一緒に多様な表現活動(楽器含む)
1 目標 (※下線は筆者)					
(1)曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに <u>音楽表現を楽しむために必要な歌唱・器楽・音楽づくりの技能を身に付けるようにする。</u>		◎	◎	◎	◎
(2)音楽表現を考えて表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。		◎	○	○	○
(3) <u>楽しく音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。</u>		○		◎	◎
2 内容 A 表現(1)歌唱の活動 ア:思考力,判断力,表現力等 イ:知識 ウ:技能					
ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。		◎			
イ 曲想と音楽の構造などとの関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。		◎			
ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。					
(ア)模唱を聴いて歌ったり、暗名で模唱したり暗唱したりする技能		○			○
(イ)自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能		○			○
(ウ)互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能				◎	◎
表現(2)器楽の活動					
ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。					
(ア)模奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能			○		
(ウ)互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能				◎	◎
表現(3)音楽づくりの活動					
ア(ア)音遊びを通して、音楽づくりの発想を得ること。			○		○
ウ(ア)設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能		○			○
指導計画の作成と内容の取り扱い (※下線は筆者)					
1(1)(前略)音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、 <u>音楽表現を生み出した</u> り <u>音楽を聴いてそのよさなどを見いだし</u> たりするなど、 <u>思考・判断し、表現する一連の過程を大切に</u> した学習の充実を図ること。		○		◎	◎
1(6)低学年においては、(中略)他教科との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。(後略)		○	○	◎	◎

むことが示される。歌のしかけ絵本の教材の意図には、子どもを楽しませる、一緒に楽しむという観点があるが、幼児期の「受動的な関わり」から児童期の「主体的」に実践に関わる可能性・発展性を見据えて、歌のしかけ絵本の特徴と小学校学習指導要領にいかなる整合・関連性があるかを検証し、表3にまとめた。

5.2.1 目標 (表3)

「1目標」の内容は、表3の下線部の文言を中心に、音楽的特徴のほぼ全てと整合・関連性がある。

5.2.2 内容 (表3)

「2内容」では、ア；思考力，判断力，表現力等、イ；知識、ウ；技能に関する資質・能力が示されるがA表現(1)歌唱の活動においては、アイウ全てが、音楽的側面のいずれかの特徴と整合・関連している。(2)器楽の活動は、ウ「技能」の内容と特徴②リズムの観点、③④アンサンブルや多様な表現活動の観点との整合・関連性を指摘できる。(3)音楽づくりの活動は、ア(ア)の音遊

びから音楽づくりの発想を得る内容が、特徴②のリズムの観点、特徴④の楽器を含む多様な表現活動と関連する。その根拠として、『小学校学習指導要領解説』の「音遊び」の例には「リズムを模倣したり、言葉を唱えたり、そのリズムを打ったりする遊び」⁷⁾が示されている。この内容と、歌のしかけ絵本で実践できる②④は関連性が深い。ウ(ア)の即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能は、特徴④多様な表現活動との関連性を指摘でき、例えば歌のしかけ絵本の表現活動として、絵からイメージした音を選んで即興的に鳴らすといった活動が、この即興的な表現技能と関連する。

5.2.3 指導計画の作成と内容の取り扱い (表3)

歌のしかけ絵本は、皆で歌いながら楽しむなど、多様な表現活動が可能であるが、1(1)の「他者と協働しながら、音楽表現を生み出した」の文言は、正に特徴③④と整合する。また「思考、判断し、表現する一連の過程を大切に」した学習の充実」の文言は特徴①と関連する。1(6)の

「他教科との関連を積極的に図り」は、図工と音楽の複合的な表現教材である歌のしかけ絵本の特徴が整合し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮」は、全ての特徴と整合・関連性がある。

6. 小学校教科書との整合・関連性

6.1 図画工作

図画工作の教科書は、日本文教出版、開隆堂出版（以下「日文」「開隆堂」と表記）の2社から出版されている。歌のしかけ絵本の造形的側面の特徴③では、小学校でも学習するモダンテクニックに関する発展的な内容が含まれるため、ここでは幼小連携の観点から、上記2社の1・2年生の教科書及び3・4年生の教科書と、歌のしかけ絵本との整合・関連性を検証する。

6.1.1 1・2年生の教科書との整合・関連性

日文『たのしいなおもしろいな』1・2上下巻

表4 日文1・2と「歌のしかけ絵本」の特徴との整合・関連性			
課題例	活動の種類	内容	造形的側面との整合・関連性
上巻			
ちよきちよきざり	工作	紙を折ったり重ねたりして切る。	①○②◎③○
やぶいたかたちからうまれたよ	絵	紙を破ったりちぎったりして貼り絵に(コラージュ)する。	①○②◎③◎
べったんコロコロ	造形遊び	様々な素材に絵の具をつけたスタンプ。	②◎ ③◎
おはなしからうまれたよ	絵	お話を聞いたり読んだりして、想像して絵に表す。	①◎②○③○
うつしたかたちから	絵	ダンボールでスタンプし、こすりだしてかたちを写す。	②◎ ③◎
クレヨン・パスでかいてみよう	画材の説明	クレヨン・パスで描く方法を学ぶ。	②◎ ③◎
えのぐでかいてみよう	画材の説明	えのぐで描く方法を学ぶ。	②◎ ③○
ペンでかいてみよう	画材の説明	ペンで描く方法を学ぶ。	②◎
かたちをうつそう	描画の説明	スタンプ、こすりだし、ぼかし。	②◎ ③○
はさみをつかってかみをきろう	道具の扱い方	はさみの持ち方と切り方。	②◎
のりではろう	道具の扱い方	のり、ボンド、テープなどの接着方法。	②◎
下巻			
ことばのかたち	絵	本やことばのイメージから描く。	①◎②○③○
ざいりょうからひらめき	絵	様々な素材を集めてコラージュする。	①○②◎③◎

(表4)の上巻では、合計24の課題例と画材や道具の使い方が掲載され、そのうち5つの課題例と6つの画材や道具の説明において、下巻では23の課題例のうち2つの課題例において、歌のしかけ絵本との整合・関連性があった。

開隆堂『わくわくするね』『みつけたよ』1・2上下巻(表5)の上巻では合計23の課題例が掲載されており、そのうち2つの課題例と3つの学びの資料の説明において、下巻では24の課題例のうち2つの課題例と学びの資料の説明3つに歌のしかけ絵本との整合・関連性があった。

表5 開隆堂1・2と「歌のしかけ絵本」の特徴との整合・関連性			
課題例	活動の種類	内容	造形的側面との整合・関連性
上巻			
クレヨンやパスとなかよし	絵	クレヨン・パス、こすり出しの技法。	①○②◎③◎
ちぎってはって	絵	紙を破ったりちぎったりして貼り絵(コラージュ)する。	①○②◎③◎
スタンプ、スタンプ	造形遊び	様々な素材に絵の具をつけてスタンプする。	②◎ ③◎
おはなしからうまれたよ	絵	お話を聞いたり読んだりして、想像して絵に表す。	①◎②○③○
うつしたかたちから	絵	ダンボールでスタンプしこすりだしてかたちを写す。	②◎ ③◎
クレヨンやパス	画材の説明	クレヨン・パスの技法。(絵の具、ペンの使用法)	②◎ ③◎
はさみ	道具の扱い方	はさみの持ち方と切り方、紙の特性。	②◎
のり、せっちゃんざい、セロハンテープ、ホチキス	道具の扱い方	のり、ボンド、テープ、ホチキスなどの接着方法。	②◎
下巻			
ぼかしあそび	絵	クレヨン・パスをぼかして描く方法。	①○②◎③◎
ふしぎないきものあらわれた	絵	はじき絵の描き方。	①○②◎③◎
いろいろもよう	絵	泡絵の具、にじみ絵の技法。	②◎ ③◎
クレヨンやパスのかきかたをくふうしよう	画材の説明	クレヨン・パスで描く方法の応用を学ぶ。	②◎ ③◎
カッターナイフ	道具の説明	カッターの安全な使い方。	①○

6.1.2 3・4年生の教科書との整合・関連性

日文『ためしたよ見つけたよ』3・4上下巻(表6)の上巻では合計23の課題例と画材や道具の使い方が掲載されており、そのうち1つの課題例と3つの画材や道具の説明において、下巻では23の課題例のうち2つの課題例と1つの学びの資料説明に歌のしかけ絵本との整合・関連性があった。開隆堂『できたらいいな』『力を合わせて』3・4上下巻(表7)の上巻では、合計19の課題例が掲

表6 日文3・4と「歌のしかけ絵本」の特徴との整合・関連性			
課題例	活動の種類	内容	造形的側面との整合・関連性
上巻			
ことばから形・色	絵	詩やお話のイメージを思い浮かべて描く。	①◎②③○
絵のぐをつかってあらわそう	画材の説明	水彩絵の具の使い方や描き方、道具。	①◎ ③○
はさみをつかってかみをきろう	道具の使い方	はさみの使い方の応用。	②◎
あなをあけよう	道具の使い方	様々な道具を使って素材へ穴を開ける。	①○
せつちやくざいをつかおう	道具の使い方	様々な接着剤の扱い方。	①○
下巻			
カードでつたえる気持ち	工作	飛び出すしかけのあるカードを作る。	①◎ ④○
言葉から形・色	絵	詩や物語のイメージで描く。	①◎②③○
絵の具を使ったいろいろな表し方	描画の技法	モダンテクニック。(ドリップング、スパッタリング、デカルコマニー、吹き流し、マーブリング)	②○ ③◎

表7 開隆堂3・4と「歌のしかけ絵本」の特徴との整合・関連性			
課題例	活動の種類	内容	造形的側面との整合・関連性
上巻			
にじんで広がる色の世界	絵	にじみ絵の描き方。	②○ ③◎
絵の具と筆の使い方	道具の使い方	水彩絵の具の道具の使い方。	①○②③◎
下巻			
飛び出した物語	工作	物語の場面をイメージして絵と立体に表す。	①◎
ハッピーカード	工作	飛び出すしかけのあるカードを作る。	①◎ ④○
絵の具を使った表し方をくふうしよう	描画の技法	モダンテクニック。(マーブリング、スパッタリング、ドリップング、吹き流し、ローラー等)	②○ ③◎

載されており、そのうち1つの課題例と1つの学びの資料の説明において、下巻では、19の課題例のうち2つの課題例と1つの学びの資料に歌のしかけ絵本との整合・関連性があった。

6.2 音楽

音楽の教科書は、教育芸術社、教育出版の2社から発行されている。幼小連携の観点から、1年生の教科書：教育芸術社『小学生のおんがく1』（以下「教芸」と表記）、教育出版『おんがくのおくりもの1』（以下「教出」と表記）と歌のしかけ絵本との整合・関連性を検証する。

6.2.1 教材曲の観点から（表8）

歌のしかけ絵本の「歌」は『こどもの歌93』⁸⁾に掲載の子どもの歌・童謡から選択するが、教芸の歌唱教材合計30曲のうち17曲が、教出の歌唱教材

表8 音楽の教科書(1年生)と『こどもの歌93』に共通して掲載される歌	
小 学 生 の お ん が く (教 芸)	<p>題材名「うたっておどってなかよくなるう」「はくをかんじとろう」「はくについてリズムをうとう」「ようすをおもいうかべよう」「みんなであわせてたのしもう」「うたいつこうにほんのうた」</p> <p>あいあい いぬのおまわりさん うれしいひなまつり おしょうがつ おつかいありさん かたつむり きらきらぼし こいのぼり こりのうた こぶたぬきつねこさんぽ たなばたさま ちようちよう ちゅうりつぷ ぞうさん ぶんぶんぶん めだかのがっこう (アイウエオ順)</p>
お ん が く の お く り (教 出)	<p>題材名「どんなうたがあるかな」「リズムとなかよし」「うたでまねっこ」「みんなであわせて」「きせつのうた」「おんがくランド」</p> <p>あいあい いぬのおまわりさん うれしいひなまつり おしょうがつ おつかいありさん おもちやのチャチャチャ かえるのがつしよう かたつむり きらきらぼし こいのぼり こりのうた こぶたぬきつねこさんぽ たきび たなばたさま ちようちよう ちゅうりつぷ ばすごっこ ぶんぶんぶん めだかのがっこう もりのくまさん やぎさんゆうびん (アイウエオ順)</p>
合計17曲	
合計22曲	

合計35曲のうち22曲が『こどもの歌93』所収の歌と一致する。《さんぽ》をはじめ、幼児教育現場の定番曲が多数掲載されており、教材曲と歌のしかけ絵本との関連性は深い。

6.2.2 学習活動（指導内容）の観点から

教芸の学習活動は、10の題材とオプション部分で構成され、歌のしかけ絵本と関連する題材は、

- ・題材1. うたっておどってなかよくなるう
- ・題材2. はくをかんじとろう
- ・題材3. はくについてリズムをうとう
- ・題材7. がっきとなかよくなるう
- ・題材8. ようすをおもいうかべよう、である。

教出の学習活動は、導入部(7の学習活動)と、7つの題材及びオプション部分で構成され、歌のしかけ絵本と関連する題材は、

- ・導入部の6つの学習活動（歌1・身体表現5）
- ・題材1. リズムとなかよし
- ・題材3. もりあがりをかんにて
- ・題材6. うたでまねっこ、である。

以下、活動内容ごとに検証していく。

歌う活動

教芸の題材1「うたっておどってなかよくなるう」は、教科書の絵から歌を探して友達と一緒に楽しく歌う学習活動である。教出の導入部分の学習活動「どんなうたがあるかな」も同様の学習で、この学習活動は教師用指導書において幼保との関連が示される⁹⁾。題材6「うたでまねっこ」は、《もりのくまさん》等を教材に交互唱を楽しむ題材である。お互いの声を聴きあい、歌い方を工夫して友達と一緒に表現する喜びを感じる事が学

習のめあてである。以上、歌う活動は、音楽的側面の特徴①と内容が整合し、特徴④とも関連する。

リズム学習と楽器の活動

教芸の題材2「はくをかんじとろう」はリズムの学習で、《さんぽ》を教材曲に、歌ったり、音楽に合わせた手拍子や歩く活動を通して拍を感じ取り、リズムを打つことが学習のめあてであり、題材3「はくによってリズムをうとう」の拍打ち、リズム作りへと繋げる。題材7「がっきとなかよくなろう」は楽器学習の基礎で、楽器の鳴らし方を工夫して色々な音を出すことや、気に入った音を見つけて歌と一緒に楽器を鳴らす活動である。教出では、導入部の学習活動に「おながくにあわせてからだをうごかそう」「うたにあわせてみぶりであそぼう」等、歌にあわせて歩く、身振りを付ける、リズムを感じて体を動かす身体表現活動が5つ掲載される。題材1「リズムとなかよし」は、リズムを拍によって打つ、リズム模倣・リズム作り、楽器でリズムを打つ活動となる。以上の身体表現を含むリズム学習は、特徴②リズムの観点と関連性があり、楽器を用いる活動は、特徴②に加え④の楽器を含む多様な表現活動と関連する。

曲の様子を思い浮かべて表現する活動

教芸の題材8「ようすをおもいうかべよう」では、歌《きらきらぼし》《はるなつあきふゆ》を教材に、星空・季節の様子を思い浮かべ、様子に合う歌い方や楽器の鳴らし方を工夫することが学習のめあてである。教芸の2年生の教科書でも同じ題材名があり、その内容は様子进行を思い浮かべながら注意深く聴く活動も加わり、発展的な学習内容となってくる。教出では題材3「もりあがりを感じて」がこの活動にあたり、《ひのまる》を教材に曲の感じを大まかに捉え、歌詞の表す情景を想像し、もりあがりを意識して歌う。2年生の教科書では「きよくに合った歌い方」という題材名で明確に提示され、3～6年でも継続的・発展的に扱われてゆく。この表現活動は特徴①と整合し、④の楽器を含む多様な表現活動とも関連がある。

7. 考察

以上、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、小学校の教科書と歌のしかけ絵本との整合・関連性を、図工的側面、音楽的側面から検証してきた。その結果を基に、3つの観点から考察を行う。

7.1 幼児教育の表現教材としての有効性

幼児教育における歌のしかけ絵本の有効性について、理論的側面の検証として幼稚園教育要領との整合・関連性を調べた。その結果、表1の分析の通り、歌のしかけ絵本は、幼稚園教育要領の内容と整合・関連性が高いことが分かった。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の(9)(10)、領域「言葉」の「3. 内容の取り扱い」の(3)(4)、領域「表現」の「1 ねらい 2 内容」の(1)～(8)の計14の内容のうち、図工的側面の特徴とは6の整合性と5の関連性、音楽的側面の特徴とは3の整合性と6の関連性があり、全体としては9の整合性と11の関連性があった。そこから、歌のしかけ絵本は、子どもが歌をイメージした絵や扱われる素材を見て、造形の様々な表現方法に受動的に親しみ、歌ったり、歌のリズムや言葉に触れたりすることでイメージを膨らませ、能動的にも表現を楽しむことができる幼児教育に適した表現教材として有効であることが立証できたと考える。

7.2 小学校教育の表現教材としての有効性

7.2.1 図工的側面からの分析と考察

学習指導要領（図画工作）の内容との整合・関連性についての検証として、受動的な鑑賞教材としての観点に加え、児童が自分で作る能動的な表現の教材という観点から、5.1の表2にその分析をまとめた。その結果、「目標」と「内容A 表現」の絵、立体、工作において、歌のしかけ絵本の特徴との整合・関連性が高いことが明らかになった。また、「内容B 鑑賞」や「各内容の共通事項」においても関連性が高く、「指導計画の作成と内容の取り扱い」では、共同して作り出す活動や、他教科との関連を積極的に図る内容において整合・関連性があることが確認できた。このことから、歌のしかけ絵本は学習指導要領で定められた

図画工作の学習目標と内容に沿った教材であることが明らかになったと考える。

次に、教科書の内容との整合・関連性の検証からは、6.1の表4、表5では、1・2年生の教科書において、特に、歌のしかけ絵本を作る時に必要な技能との整合・関連性がある絵を描く課題が多いことを確認した。それらの絵の課題は、モダンテクニックを幼児教育で接してきた絵の具を用いた造形遊びから描画技法へと発展・応用させる内容である。そして、絵の課題には、本や言葉のイメージ、お話の場面を想像して絵に表す課題も多く含まれている。(日文1・2「おはなしからうまれたよ」「ことばのかたち」、開隆1・2「おはなしからうまれたよ」、日文3・4「ことばから形、色」「言葉から形・色」開隆3・4「飛び出した物語」)

その課題内容は、歌のイメージを絵による視覚的なイメージに表す歌のしかけ絵本の制作と深く関連している。また、これらの課題が掲載されている教科書の部分には、児童の実践作品のサンプル画像が掲載されており、その画像から小学校低学年及び中学年の児童が歌のしかけ絵本の絵を制作することが可能であることが確認できた。そして、工作の道具の扱い方の説明は、歌のしかけ絵本の簡単なしかけ作りに役立つ内容であった。表6、表7で示した3・4年生の教科書では、1・2年生の教科書より歌のしかけ絵本との整合・関連性のある絵の課題は減少するが、引き続きモダンテクニックの応用方法について扱われ、詩や物語のイメージを絵や立体に表したりする発展的な課題も掲載される。(日文3・4「カードでつたえる気持ち」、開隆3・4「飛び出した物語」「ハッピーカード」)これらの課題も、全て児童の実践作品のサンプル画像が掲載されており、その画像からも、小学校において児童が歌のしかけ絵本のしかけを制作することが可能であることが伺えた。また、3・4年生の教科書には、1・2年生の教科書にはない飛び出すしかけのあるカードを作る課題が登場し、その内容はしかけをつくる際に必要な知識と技能である。このことから、小学校において、歌のしかけ絵本を「見て楽しむ表現教材」

から「作って楽しむ表現教材」に幅を広げることができ、1・2年生だけでなく3・4年生で扱うことにも適していると言えるだろう。以上のことから、図画工作の授業において、歌のしかけ絵本は表現教材としての有効性が高いと考える。

7.2.2 音楽的側面からの分析と考察

学習指導要領(音楽)の内容と歌のしかけ絵本との整合・関連性について、児童期には主体的・能動的に歌のしかけ絵本の表現活動に関わる可能性を見据えて分析・検証した結果(表3)、特に「目標」と「内容A表現(1)歌唱の活動」において、音楽的側面の特徴と整合・関連性が高いことが明らかになった。特に(1)アの「曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつ」内容は、幼児教育から継続して扱われ、小学校では自分の思いに合う表現をする為の「技能」に結び付けていく内容であるが、歌のしかけ絵本の特徴とも整合する観点である。また、表現(2)器楽の活動の技能面、(3)音楽づくりの音遊びや即興表現は、5.2.2で述べたような内容での関連性がある。「指導計画の作成と内容の取り扱い」では、「他者と協働しながら音楽表現を生み出す」「他教科との関連を積極的に図る」という文言が、複合的な表現教材である歌のしかけ絵本と特に整合する。以上のことから、歌のしかけ絵本は、学習指導要領(音楽)で示される目標と整合・関連性が高く、音楽の各学習内容とも関連の深い表現教材であることが明らかになった。

次に、教科書の内容から小学校教育の表現教材としての有効性に関して考察を行う。まず、歌う活動に関わる教材曲について、1年生の音楽教科書の教材曲は、表8に示した通り、歌のしかけ絵本の歌と共通する曲が多かった。教科書の導入の内容は知っている歌を歌うことであるが、導入期の授業で歌のしかけ絵本の実践を取り入れることにより、歌う活動をより深く楽しめたり、描いた絵やしかけからその歌に興味や愛着を持ち、意欲的に歌唱活動に向かうことに繋がることが考えられる。次に、リズム学習と楽器の活動について、1年生の教科書の導入部や題材1の内容は、音楽やリズムに合わせて歩く等、身体表現を行う内容

であった。題材2以降は、拍にのったリズム打ちやリズム模倣・リズム作りへと発展してゆく。歌のしかけ絵本の特徴②は、リズムに合わせてしかけを動かす活動を通してリズムへの意識が増すことであるが、まずこの観点で教科書の内容との関連性があった。更に、歌のしかけ絵本の実践では、歌詞のイメージに合う楽器を取り入れる活動（例えば《おもちゃのチャチャチャ》で歌詞「チャチャチャ」の部分に楽器でリズム打ちを行う）や、絵本の効果音として、絵や歌のイメージに合う楽器や音を探して表現する活動も可能であり、児童の楽器経験や興味に応じて柔軟に扱うことができる為、リズム学習や楽器の導入の活動としても有効性があると考ええる。最後に、曲の様子を思い浮かべて表現する活動は、1・2年生を通じて教科書に掲載される内容で、歌のしかけ絵本の特徴①（絵を通して歌の情景や気分を想像して歌い方を工夫）と整合する為、そのまま教材として取り入れることが可能である。児童の音楽表現を豊かにするには、まず自分なりの思いやイメージを持つことが大切である。その基礎となる曲の気分や様子を思い浮かべる活動の際に、歌のしかけ絵本の絵（歌詞のまとまりごとに描く複数枚の絵）・しかけは、イメージが浮かびづらい児童にとっての一助となったり、自分と異なるイメージや解釈にふれることもできるであろう。反面、絵の存在によって児童のイメージが固定化され、「音楽」そのものを聴いて想像力を膨らませる学習にはならない、という点も生じるが、曲の様子を思い浮かべる学習活動は6年生まで継続的・発展的に扱われる内容であり、想像力を育む学習段階として、1年生の導入期では歌のしかけ絵本の絵や、動きを伴うしかけを活用しつつ、学年や発達に応じて、音楽（楽曲）そのものや歌詞からイメージする力へ繋げていく学習過程を一つの案として想定できるであろう。ただし1年生（低学年）であっても、曲によっては、絵を活用せずとも音楽そのものや歌詞から想像することが容易にでき、むしろそのことの方に意義を有する曲もある為、歌のしかけ絵本を教材として取り入れる際には、児童の学年ごとの発達特性や理解度をもとに、この学習（曲

の様子を思い浮かべて表現）の効果を高めるために相応しい歌（曲）は何かという視点を持ち、慎重に検討・選曲したうえで活用することが重要であると考えられる。

以上より、歌のしかけ絵本は、主に小学校低学年の音楽授業における表現教材としての有効性があると考えられる。

7.3 幼小連携の表現教材としての有効性

7.1、7.2の考察をふまえ、幼児教育で見たり聴いたり歌ったりして親しんだ歌のしかけ絵本の内容は、小学校教育では、音楽では低学年において、図工では低学年から中学年にかけてその学びが深まり、幼児教育から小学校教育への発展的な接続を可能にする有効性があることが分かった。具体的な実践の場としては、図工の授業で絵本を制作し、音楽の授業でその絵本を用いて歌唱等の表現活動を行うことがまず想定できるが、その図工的側面の有効性として、幼小と同じ材料や画材、道具を使うことで造形的な表現への親しみを深め、幼児教育で楽しんだ造形あそびを絵や工作による表現へと応用し、自分なりのイメージを豊かに表わす方法を発展させていきやすくなる。音楽的側面では、幼小と継続して同じ歌を教材とすることにより、音楽の授業の導入期で児童の心身の緊張を解きほぐし、小学校教育へのスムーズな移行を可能にする。その後の授業でも歌に対する愛着が増したり、曲の様子を思い浮かべて表現する活動に有効となる。また、しかけのリズミカルな動きを見て感じる幼児期の経験から、拍を感じてリズムを打つ、リズム作りの学習へと発展させることができる。そして図工と音楽を融合する実践発表によって教材と主体的に関わり、参加型の学びを可能にし、コミュニケーション能力の育成へと発展させていくことが可能となるだろう。以上の観点から、歌のしかけ絵本は幼小連携の表現教材としての有効性があり、幼児教育においても小学校教育においても、豊かな表現に親しむこと、創意工夫に満ちた表現力とそのための技能を、楽しみながら段階的に幅広く発展させながら身につけていくことを可能にすると考えられる。

また、歌のしかけ絵本が、小学校の表現教育に

における合科的な取り組みを実現することも、幼小連携の表現教材としての有効性のひとつであると考える。幼児教育では、造形と音楽は同じ「表現」の領域に属するが、小学校においては図画工作科と音楽科に分離する。しかし『小学校学習指導要領』の幼児教育との接続や、「スタートカリキュラム」に関する主な記述を改めて確認すると、「第1章総則第2（教育課程の編成）3（3）エ」では、「（前略）指導の効果を高めるため、児童の発達の段階や指導内容の関連性等を踏まえつつ、合科的・関連的な指導を進めること。」^{10）}（下線は筆者）、同じく「第2 4（1）」には「（前略）低学年における教育全体において、（中略）教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、（中略）生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。」^{11）}（下線は筆者）と示される。以上の要請からも、歌のしかけ絵本は、幼小連携を見据えた表現系科目の合科的な指導を目的とした教材として意義があると考えられる。

8. おわりに～今後の課題と展望

今後の研究の展望としては、理論的側面における検証から導き出された歌のしかけ絵本の有効性に関して、小学校の教育現場において実践的な側面から検討し、考察を深めることが課題である。小学校において、近年、合科的・関連的な指導が推奨されているとはいえ、実際には図工と音楽の授業が別々に行われている中、どのように取り入れていくのか、生じてくる課題も明確にしながら、具体的な実践の場や形を想定することが必要になってくるであろう。そのためには、児童や小学校教員の前で歌のしかけ絵本の実践発表を行うことを通して、小学校の現場の意見や児童の反応を調査し、児童による歌のしかけ絵本の制作を実践するという展望を持ち、幼小連携を目的とした表現教材としての可能性と幅広い活用方法について今後も探っていきたいと考えている。

注

- 1) 東ゆかり・薩摩林淑子・山成美穂（2018）「保育の表現指導を豊かにする「歌のしかけ絵本」についての一考察—保育者養成課程における「保育内容演習表現」の授業実践を通して—」『鎌倉女子大学紀要』第25巻，pp.75－88.
- 2) 東ゆかり・薩摩林淑子・山成美穂・長谷川麻実子（2019）「保育の表現指導を豊かにする「歌のしかけ絵本」に関する研究」（中間報告）『鎌倉女子大学学術研究所所報』第19巻，pp.47－52.
- 3) 東ゆかり・薩摩林淑子・山成美穂・長谷川麻実子（2020）「保育の表現指導を豊かにする「歌のしかけ絵本」に関する研究」『鎌倉女子大学学術研究所所報』第20巻，pp.9－18.
- 4) 小橋・小林・榎（2018），p.403.
- 5) 本稿における幼小連携の「幼」は、幼稚園、保育所、認定こども園を指す。『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』では、「表現」領域に関わる内容・文言がほぼ酷似している為、本稿では分析の重複を避けるために『幼稚園教育要領』に絞って分析・検討を行う。
- 6) 本稿では、図工的側面の「図工」の意味として、幼児教育における「造形表現」を含むこととする。
- 7) 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』，p.44.
- 8) 東ゆかり・小山裕之・薩摩林淑子・パップ晶子・三縄公一・渡辺宏章（2012）『こどもの歌 93 弾き歌いベスト曲集』，カワイ出版.
- 9) 教育出版（2020）『小学音楽 音楽のおくりもの1 教師用指導書 研究編』，p.19. p.25.
- 10) 11) 文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成29年告示）』，p.21.

引用・参考文献

- 岡林典子（研究代表者）（2013－2016）「幼小連携をふまえた音楽教育プログラムの開発」科研課題番号25381279
- 岡林典子・難波正明・山崎菜央・深澤素子・松田

- 幸恵・藤井香葉子・高橋香佳・大瀧周子(2017)「幼小をつなぐ音楽活動の可能性(4)—絵本を用いた「表現遊び」から「音楽づくり」へ—」『京都女子大学発達教育学部紀要 第13号』pp.73-83.
- 柿沼芳枝(2021)「パネルシアターの教材特性に関する一考察—つくること、演じること—に視点をあてて—」『東京家政大学教員養成教育推進室年報』第11号, pp.33-40.
- 小橋暁子・小林恭代・槇英子(2017)「『造形表現』と『図画工作科』の接続Ⅰ—「造形表現」に焦点をあてて—」『千葉大学教育学部研究紀要』第64巻, pp.467-475.
- 小橋暁子・小林恭代・槇英子(2018)「『造形表現』と『図画工作科』の接続Ⅱ—「図画工作科」に焦点をあてて—」『千葉大学教育学部研究紀要』第66巻, pp.395-404.
- 小橋暁子, 佐藤真帆, 槇英子(2018)「幼小をつなぐ造形教育カリキュラムの研究—実態調査の結果から—」『千葉大学教育学部研究紀要』第66巻, pp.413-420.
- 小橋暁子・佐藤真帆・槇英子(2019)「幼小をつなぐ造形教育カリキュラムの研究Ⅱ—実態調査の結果と保小の比較—」『千葉大学教育学部研究紀要』第67巻, pp.395-400.
- 坂井康子・佐野仁美・岡林典子(2023)「創造性と協同性を重視した幼児の表現遊び—音楽づくりへのつながりを視野に入れた4歳児の実践から—」『甲南女子大学研究紀要Ⅰ』第59号, pp.143-150.
- 佐野仁美・岡林典子・坂井康子(2016)「『音楽づくり』へつなげる幼児の表現遊び—絵本を用いた実践をもとに—」『関西楽理研究』XXXⅢ, pp.15-31.
- 文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編』
- 文部科学省(2017)『幼稚園教育要領平成29年告示』
- 日本文教出版(2021)『ずがこうさく1・2上下』『図画工作3・4上下』.
- 開隆堂出版(2021)『ずがこうさく1・2上下』『図画工作3・4上下』.

教育芸術社(2023)『小学生の音楽1・2年』.

教育出版(2023)『小学音楽 音楽のおくりもの1・2』.

要旨

本研究は、図工と音楽の複合的な表現教材「歌のしかけ絵本」の、幼小連携を目的とした表現教材としての可能性・有効性に関する研究であり、本稿では主に理論的側面からの検証を行った。「歌のしかけ絵本」の特徴と、『幼稚園教育要領』『小学校学習指導要領/図画工作・音楽』『教科書/図画工作・音楽』の内容との整合・関連性を分析・検証した結果、「歌のしかけ絵本」は、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領に示される観点や、各教科書の内容と整合・関連性が深く、表現系科目の合科的な指導を目的とした教材として意義があり、幼小連携を意図した小学校における表現教材としての有効性があることが明らかになった。

(2023年9月19日受稿)